長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１１７

# みんなの居場所

**裏面の話題**

**みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。**

令和５年９月１９日(火)

## 【雑感】

通勤途上、国道２０８号線から長洲町方面に入ると緑が広がる。梅雨時期に行われた田植え、いよいよ穂が目立ち始めた。今後の台風が心配されるところではあるが、とにかく順調に実りの秋を迎えて欲しいと思う。

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」

これから稲穂は実れば実るほど、その頭を垂れてくる。美味しいお米が実ってきている証拠だ。私もこの句の様にありたいと常に願っているが、中々うまくいかないのが、凡人たる所以だ。人間性を磨くことの難しさを、この言葉から改めて感じる。

子供達にも願う。中身をしっかり磨くこと、学業、健康、そして心を磨くことに精進して欲しい。そのための具体策を考えてみた。

①相手の立場で言動を考える
②人よりも自分の成長を意識する
③向上心をもって学び続ける
④小さな事にも感謝する
⑤健康的な生活を送り心に余裕を持つ
⑥消極的感情をコントロールする
⑦ルールや約束は必ず守る
⑧相手への尊敬を忘れない
⑨謙虚さを忘れない
⑩笑顔で過ごすことを心がける
⑪読書や芸術を通して知見を広げる…

挙げればきりがないのだが、こういった視点を意識して生活し、定期的にチェックしていくことで人間性が磨かれるかもしれない。私の場合、⑥の消極的感情のコントロールが最も苦手だ。いわゆる、「凹む」状況に陥ることが多い。まだまだ人間としての輝きを得るのは先のようだ。

## 子供達のあいさつの実態

挨拶について歴史や意味合いについて調べてみると、実に面白い。日本の場合「相手の心を開く」という意味があるらしい。そういえば、笑顔で挨拶をしてくれる子供達ほど、名前も早く覚えるし普段から楽しく会話ができる。人と接するのが苦手な子供達もいるかもしれないが、社会生活を送るための必要なスキルとして挨拶を考えるならば、苦手だから挨拶をしない？訳にもいかないだろう。私は家族からこう言われる。「お父さんは笑顔で挨拶せんと怖がられるよ。」だからだろうか、私はできる限り、誰にでも半ば無理やり笑顔で挨拶をするようにしている。お陰で子供達は結構寄ってきてくれて、保護者の皆様、特におじいちゃんおばあちゃんが声をかけてくれるようになった。

子供達のあいさつの実態を振り返ってみたい。個人的な見解であるが、あまりできているとは言えない。特に低調なのは朝だ。起きているのかどうか分からないような雰囲気で、私が挨拶しても無言で通り過ぎていく子もいる。人と接するのを恥ずかしがることもある。しかし、そういった子供達は「損」しているともいえる。挨拶によって自分に関わってくれる人が増えていくことを経験則として知っているからだ。

変わらない価値（不易）はあるものだ。挨拶は正にその最たるものだと思うが、どうだろう？

## シリーズ「自分を語る」#１１７

その年の学級経営も、慌ただしく且つ充実したものでした。１年間しか担任することが出来ませんので「この学級で良かった。」と思わせなければならないという危機感もありました。私はそう思わせることが教師の使命だと考えています。その後の長い付き合いのための基礎の１年が、担任させて頂く１年になるからです。

いよいよ夏休み、８月の初め頃でしたでしょうか、学級キャンプが実施されました。毎年のように思いますが、子供達、保護者の皆様とキャンプで時間を共有しながら、私はすでにナイトハイクへの準備を始めていました。キャンプもナイトハイクもすべて班行動です。①時間に遅れる、②ルール違反、③自分ファーストの考え方等は、絶対にダメです。たとえ楽しいキャンプの最中であっても、これらの点については見逃しませんでした。キャンプは熊本県立天草青年の家で実施しましたが、ここでの生活は生活背景の違う集団が公共の施設で研修しながら、共同生活を行う場所です。だからこそ右記の３点は譲れないのです。私が担任させて頂いた学級では、社会教育施設を使わせて頂きキャンプを実施しました。というのも、ご飯を作るだけでキャンプの殆どを終えてしまうキャンプや、活動を子供と担任だけで行い、ご飯の準備は保護者任せ、なんていうキャンプには学びがありません。ご飯を子供達に作らせるキャンプには学びがありますが、私は食事と宿泊については、他者に任せ、活動に保護者を巻き込むという手法を取り込んできました。案外これが成功するものです。保護者の方に「大変！」とか「おおこう！」という印象を与えては次に繋がりません。「大変だったけど楽しかったね。」となるのが最も良い形です。「楽しかったね。」でもダメなのです。苦しみや辛さ、不便さ等を経験し、それを乗り越えることが先に繋がっていく形なのです。これは私が経験的に学び、現在でも続けていることです。

話が反れてしまいましたね。夏休みのキャンプを終え、子供達、保護者の次なる目標はナイトハイクです。６年生ですから当然の如く４２、１９５㎞の距離にチャレンジです。経路は熊本駅から河内線経由で玉名市を通過、その後国道２０８号線を通って中央小というルートです。前半アップダウンが多い、史上最悪のハードなルートです。

当日を迎えるまで少々気になることもありました。天気です。週間天気予報との睨めっこが続いていたのです。少々の雨ではナイトハイクが中止になったと事はありませんが、この時の天気予報は「雷雨」でした。そして当日。集合場所は荒尾駅です。荒尾駅からＪＲを利用し熊本駅まで移動します。荒尾駅ではまだ雨は降っていませんでしたが、電車で移動中に雨が降り出し、本降りになりました。電車の中で頭を抱えておりますと、参加される保護者の皆様も、私に判断をどうするのかについて話しかけられたのを覚えています。雨に備えてレインコートは準備しています。当日に心配するのは雷です。酷い雨の場合天気の状態がかなり不安定になっていますので、落雷の可能性があるからです。最後まで悩みました。そうこう言っているうちに時間は過ぎ、熊本駅に到着しました。そしてスタート地点に立っている中央小ナイトハイク一行です。ここでも雨が降っていましたので、学級案員さんと相談の結果、スタート時刻を少し遅らせることにし、雨が止むのを待ちました。子供達はやる気満々でしたが、大人は若干消極的でしたね。それはそうですよ。安全面健康面最優先で考えれば中止に傾くのは当然です。降り続く雨、どうなるナイトハイク？　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）